

第4回ジュニアセッションの報告

日本天文学会 2002 年春季年会において、第 4 回ジュニアセッションが開催された。今回は、イギリスの生徒の発表もあるなどかなり盛況なものとなった。発表数は口頭発表が 19 件、ポスターのみの発表が 4 件、発表総数が 23 件と過去最多となり、どれも熱心に研究されたものであった。

2002 年 3 月 28 日から 30 日にかけて、茨城県水戸市の茨城大学水戸キャンパスにて日本天文学会の春季年会が開催され、この年会期間中にジュニアセッションも行われました。ジュニアセッションは、中学生や高校生が天文学に関する活動を発表するもので、今回が 4 回目となります。口頭発表は 3 月 28 日に行われ、ポスターは年会の会期中を通じて掲示されました。

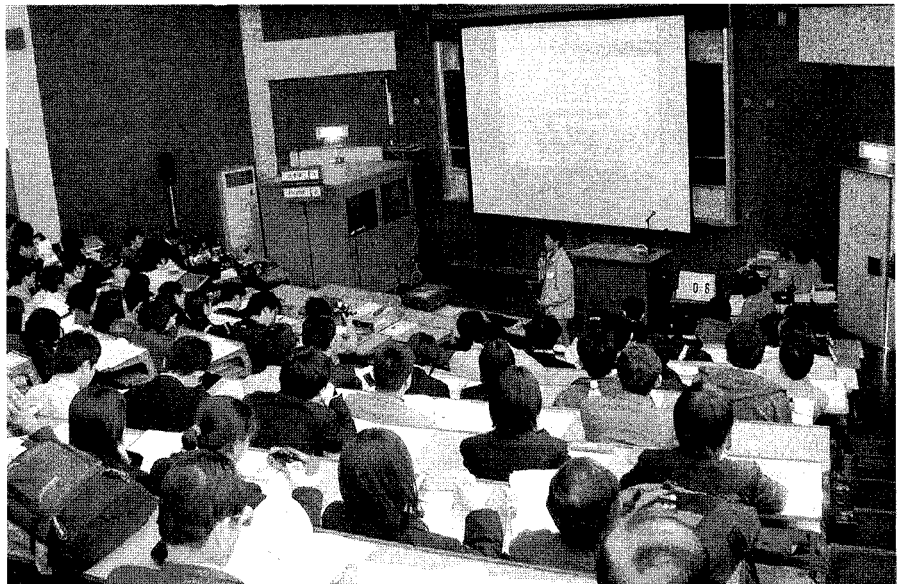
今回のジュニアセッションでは口頭発表が 19 件（ポスター発表も行ったのは 17 件）、ポスターのみの発表が 4 件と、過去最多の発表数となりました。

また、今回は初めて海外からの参加を受け入れました（講演プログラムは天文月報 2002 年 3 月号付録年会プログラム 46～48 ページ参照）。

口頭発表のセッションは、3 月 28 日の午前と午後に分けて行われました。司会は、午前を大西浩次氏と畠浩二氏に、午後を雁沢夏子氏と鈴木文二氏にお願いしました。今回の口

頭セッションは通常の学会講演と同時に開催されたため、参加者数の減少が懸念されていましたが、口頭セッションへの参加者は 215 名ほどありました。

午前の口頭セッションでは主に流星関係の発表が行われ、その内容も、電波観測、ビデオ観測、分光観測と多岐に渡り、高校生の発表とは思えない高度な研究も目立ちました。イギリスの生徒 3 人による発表「Collaborative asteroid detection and astronomical projects with Japanese schools」は午後のセッションの最初に行われ、午後のセッションは発表全てが同時通訳によって英語から日本語および、日本語から英語への通訳がなされました。ほかにも天文現象の観測報告や、中華鍋や傘を用いた電波望遠鏡の製作、カッシーニの空気望遠鏡の再現など、高校生らしいユニークな研究発表も多く、興味深いものでした。また、どの発表も熱心に研究されたものであり、研究者との質疑も活発にされていました。今回もセッション参加者にはコメント用紙とアンケート用紙を配布し、記入してもらいました。



口頭発表会場の様子

また、今回も日本通信機株式会社、日本大学総合学術情報センター、ライブ！ユニバースの協力により、口頭セッションがインターネットで中継されました。中継をしていたホームページへの当日のアクセス数は100件ほどになりました。今後も可能な限り、インターネット中継は続けていきたいと考えています。

また、今回初めての試みとして口頭セッションの日の昼の時間帯に、口頭セッションの会場で昼食を取りながら交流会を行いました。自己紹介や学校紹介、取り組んでいる研究の紹介などで、参加者同士、また参加者と研究者との間での交流が和やかな雰囲気の下、活発に行われていました。

今回のジュニアセッションでも天文教育普及研究会には共催となっていたほか、日本惑星協会、ブリティッシュ・カウンシル、茨城県教育委員会、水戸市教育委員会、茨城大学に後援していただきました。特にブリティッシュ・カウンシルには、イギリスから生徒を呼ぶ費用や同時通訳の費用なども含めて全面的に協力していただきました。また、インターネット中継では日本通信機株式会社、日本大学総合学術情報センター、ライブ！ユニバースにご協力いただきました。上記の諸機関の方々に加えて、年会開催地理事吉田龍生氏およびスタッフの方々にも多大なご協力をいただきました。協力していただいたすべての方々に感謝の意を表します。

なお、2003年の天文学会春季年会（東北大学、仙台）でもジュニアセッションを開催する予定です。中・高校生による、天文学に関する熱意ある発表を期待しています。

（石川直美）



イギリスの生徒による発表の様子



ポスター発表の様子

ジュニアセッション世話人（順不同、敬称略）

縣 秀彦、有本淳一、石川直美、大山真満、小野智子、鈴木文二、谷川智康、永井智哉、西村昌能、長谷川直子、松本直記、室井恭子、矢治健太郎、山岡 均、吉川 真、渡部潤一